

Vol. 3 2010年11月発行

編集・発行：

百軒店 たより

TOPICS

交番に女性警察官を配置
事業系ごみ出しルールについて
SCAPE WORKS 百軒店 2010
渋谷百軒店商店会の今昔

交番に女性警察官を配置

先日、道玄坂交番で会議があり参加しました。主催側の世話役を担当していたのは、若い女性の警察官。10人足らずの少人数の会議でしたが、この警察官はさわやかな笑顔で、テキパキと出席者の確認や資料の配布などをこなしていました。アレっ!?今までと様子が違う、と会議出席者は感じたのではないのでしょうか。

今、東京都内の交番で女性警察官の姿が目立ちつつあります。これまで女性警察官の交番勤務に消極的だった警視庁が、方針を転換。10月初め警察学校を卒業した新人約100名が、全員交番に配置されたようです。

「ソフトな印象や話しかけやすさが、女性被害者への対応や性犯罪の捜査に役立つ」と警視庁の期待は大きいようです。



事業系ごみ出しルールについて

事業系の資源とごみは、家庭ごみとは区別し、有料のゴミ処理券(シール)を貼付するなど以下のルールを守って出してください。

事業系ごみとは・・・

家庭生活から発生する「家庭ごみ」以外のものは原則としてすべて「事業系ごみ」です。事業そのものから出たごみはもちろん、従業員が飲食した弁当ガラなども含まれます。なお、「お店 = 事業活動の場所」と「お住まい」が一緒の場合は、事業系ごみと家庭ごみを区別して出してください。但し、事業系ごみのうち一辺の長さが 30cm 四方を超える大型のごみ(粗大ごみ)は、例外なく渋谷区では収集できません。民間の廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

事業系ごみと家庭ごみは区別して集積所に出してください。

有料ごみ処理券(シール)は次のように貼ってください。



【袋で出す場合】

袋の中のごみ量にかかわらず袋の容量に合ったシールを選んで上部の見やすいところに貼ってください。

【袋を利用して容器で出す場合】

袋の数に関係なく、ごみ容量に応じたシールを一番上の袋に張ってください。

【容器で直接ごみを出す場合】

中のごみ量に応じて容器内側の目盛りに合わせてシールを選んでください。ごみの上に新聞紙等をおき、そこにシールを貼ってください。(容器のふたにはシールを貼らない)

容量に見合ったシールがない場合は複数のシールを組み合わせてください。

【じかにシールを貼ってよいもの】

発砲スチロールや一斗缶には一個につき 10 相当シール一枚をじかに貼って出してください。

【資源を出す場合】

新聞・雑誌・・・高さ 10cm につき 10 相当シール一枚

ダンボール・・・二枚ごとに 10 相当シール一枚 できるだけリサイクルしてください。

びん・缶・・・袋の容量に合ったシールを選んでください。

有料ごみ処理券(シール)には必ず記名してください。

ルールを守らないごみの出し方や不法投棄を防ぐため、シールにはお店や会社の名前、屋号などを油性ペンで記入してください。

【有料ごみ処理券(シール)の値段】

10 券(10 枚セット)・・・610 円 20 券(10 枚セット)・・・1,220 円

45 券(10 枚セット)・・・2,740 円 70 券(5 枚セット)・・・2,135 円

SCAPE WORKS 百軒店 2010

「SCAPE WORKS 百軒店 2010」では、渋谷百軒店をフィールドに、新しい風景 (SCAPE) を創り、地域の力を引き出していくことを目的に、11月20日(土)～12月12日(日)にかけていくつかのユニットからなるイベントを開催中です。サウンドスケープというコンセプトをもとにさまざまな活動を展開する青山学院大学教授の鳥越けい子氏と、お散歩演劇(ポタライブ)の創案者・劇作家の岸井大輔氏が、青山学院大学総合文化政策学部の学生たちと協働して取り組む、アートによるまちづくりイベントです。

2年目の今年は、「写真」をテーマにした活動を中心に、この地域を渋谷の他のエリアをつなぎ、若者をはじめとするより多くの人々に「独自の渋谷文化発信地」としての百軒店の魅力を配信しています。(詳細:<http://www.sensing-winds.jp/hyakkendana/>)

百軒店 ひろがる写真

ワークショップ 11月20日(土) 11月28日(日) 12月4日(土) 13:30-

百軒店にお店や人を訪ね、まちや地域への想いを聞く撮影会

写真展 百軒店児童遊園地・青山学院青山キャンパス・青山学院アスタジオ・クリエイションスクエアしづや
ワークショップで撮影した作品も含み、百軒店のまちの今昔を紹介する写真を展示

〈つろぎ屋(百軒店児童遊園地に期間中だけ出現する仮説アートスペース)

イベント期間中の土日の午後、百軒店児童遊園地にメンバーが常駐し、その空間を写真展会場にすると共に、外部アーティストのギャラリーやサロン等として運営しています。

劇団けのび公演『等々力』 11月20日(土)15:00-

「ありうべきものとは何か」というただ一行の戯曲からなる劇

「Route 百軒店」書道ワークショップ 11月21日(日)14:00-

あなたの百軒店を筆と墨で迎える! 書道家 Rimi 先生によるワークショップ

ポエトリースケープ 12月5日(日)13:00-

このまちで、詩はどのようにひびくだろう 詩誌 repure 有志による詩の創作と合評の会

座談会

まちのはなしをきく 12月11日(土)15:00-@魚 THE ユニバース

このまちの今昔、未来への夢について、おはなしを聞く

小さな場の編集 12月12日(日)15:00-@魚 THE ユニバース

まちの小さな「アートスペース」や「公の場」について、みんなで語り合う

渋谷百軒店商店会の今昔

そもそも「百軒店」は、大正 12(1923)年の関東大震災直後、復興にともなう渋谷開発計画によって作られた街でした。箱根土地株式会社(西武グループの中心であったコクドの前身)が中川伯爵(旧・豊前岡藩主家)邸の土地を購入し、そこに百貨店のような空間を出現させるというコンセプトのもと、有名店・老舗を被災した下町から誘致したのです。当時としては非常に画期的な手法でした。

下町の復興とともに当初の有名店は去っていきましたが、その跡地には飲食店や映画館、カフェなどが次々と入り、「百軒店」は渋谷における娯楽の中心として、新たな賑わいを見せます。ジャズ喫茶やロック喫茶によっても有名で、文化の街・音楽の街として栄え、それはランプリングストリートの単館系映画館やライブハウスとともにある、現在の「百軒店」の姿へとつながっています。



(昭和戦後期の百軒店道玄坂側入口)



(現在の百軒店入口アーチ)

百軒店たより は、渋谷百軒店商店会の取り組みについて皆様にご提供いただきたく毎月発行しています。百軒店たよりに掲載してほしい情報等もございましたら、是非ご連絡ください。また、百軒店たよりに関するお問合せは下記までお願いいたします。

お問合せ

渋谷百軒店商店会 事務局 : 担当 てらお もと 寺尾 基
東京都渋谷区道玄坂 2-20-8
TEL/FAX:03-6416-1422